



バドミントン

パラリンピック

座ってプレーする「車いす」と、上肢障がい、下肢障がい、低身長ていしんちようの「立位」に大きく分かれ、障がいの程度により区分されたクラスごとに勝負を競います。クラスによっては、半面のコートを使用するなど特別ルールが適用されます。



ルール

クラス分けについて

パラバドミントンには、大きく分けて車いすくるまと立位りつがあり、障がいによりクラス分けされています。

車いす

車いすはシャトルを打つ瞬間に胸体の一部が車いすと接している必要があります。

立位

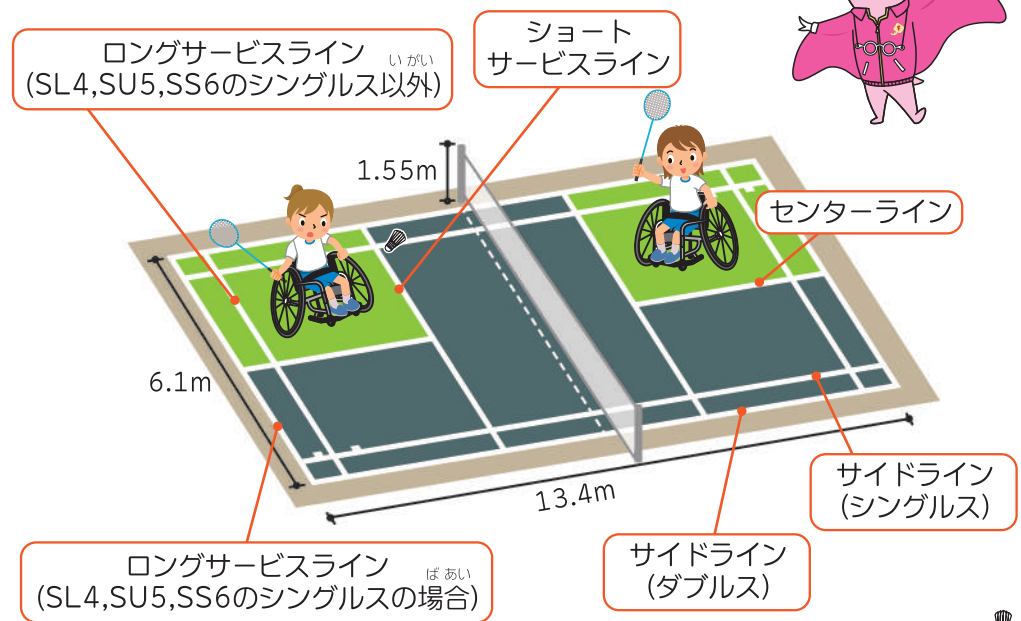
立位のカテゴリーは4クラスに分けられており、下肢障がいは障がいの程度によりSL3、4の2クラス、上肢障がいのSU5、低身長ていしんちようのSS6に区分されます。



おもに障がいの程度が重い		おもに障がいの程度が軽い			
WH1	WH2	SL3	SL4	SU5	SS6
車いす		立位			
		下肢		上肢	低身長
シングルス <small>はんめん</small> を半面で戦う			シングルス <small>ぜんめん</small> を全面で戦う		

使用するコート

ネットの高さは通常のバドミントンと同じです。



車いすのシングルスはコートはんぶんの半分を使い、ネットとショートサービスラインの間あいたあか (赤い部分) にシャトルが落ちた場合はアウトになります。

SL3のシングルスもコートはんぶんの半分を使用します。

ラケットやシャトルは通常と同じものを使用します。大会では、シングルスとダブルスが行われます。

ラケットもシャトルも一般のバドミントンと同じ

